

IT企業から製造業まで、 ふだんは立ちいることの難しい業種にも 実施の幅が広がりました。



泡盛メーカーにて



キャンピングカー製造工場にて



飲料メーカーにて



パンの缶詰工場にて



！ 津架パークに社屋のある株式会社レキサスでは、社員の人材育成の一環で実施している「朝会」からジョブシャドウイングをスタート。また、終了後にはメンターと生徒によるディスカッションの機会も設けられました。

DATA

- ① 環金武湾地域
- ② 2010年12月13日
- ③ 県立石川高等学校
県立中部商業高等学校
- ④ 40名
- ⑤ 16事業所

製造業やIT企業など、企業誘致に力を入れる環金武湾地域においてもジョブシャドウイングが実施されました。パン工場では、生地成型から機械の洗浄に至る一連の工程に携わるメンターの仕事を観察。他にも、泡盛メーカーや製塩メーカー、キャンピングカーの製造工場など、多くのものづくりの現場でジョブシャドウイングが展開されました。従来の就業体験では実際に仕事を体験させることが目的のため、限られた職種や事業所での実施しかできませんでした。一方のジョブシャドウイングは、働く姿を観察するだけのプログラムのため、就業体験では実現できなかった事業所にも協力してもらうことが可能となり、受け入れ先の幅が広がりました。さらに、企業のアピールや地域の人材育成に活かせるとして、協力してくれた団体や事業所もジョブシャドウイングを高く評価しました。

特別支援学校の生徒が初めて参加。 ジョブシャドウイングの経験が 将来の目標を考えるきっかけになりました。



「将来パソコンで仕事ができるように、技術をもっと磨きたい」と意欲を語ってくれました



ジョブシャドウイングの体験が刺激になって、「これからは毎日、新聞をチェックしたい」とアピールしてくれました

DATA

- ① 特別支援学校モデル
- ② 2010年9月14日
- ③ 県立泡瀬特別支援学校
- ④ 4名
- ⑤ 3事業所

今年度の新たな試みとして、特別支援学校の生徒がジョブシャドウイングに参加。生徒個々の状況を考慮した事前学習や企業調整を行い、実施にのぞみました。将来の目標に近づくためには何をすべきかを、ジョブシャドウイングをとおして考えるきっかけになりました。

たジョブシャドウイング について教えてください。

は、実に大きな気づきを得ていることを、事業に関わった多くの方が口をそろえて話してくださいます。
元の方々の声を聞かせていただきました。



那覇市繁多川公民館 瀬洋子さん

毎日の積み重ねや人と人との つながりがあったからこそ。

「お互いが何かあったら手を貸すよっていう気持ちが残っていて、繁多川は本当に地域力のあるところだと思う。今回のジョブシャドウイングは、毎日の積み重ねや人と人のコミュニケーションがあったからこそできたもので、決して1日では出来ない取り組みでした。」



うるま市企業立地雇用推進課 仲村渠安一さん

企業誘致活動で求められる 地元の人材育成につなげたい。

「県外からの企業誘致を仕掛けていますが、その際に必ず求められるのが地元での人材。今後も、教育現場へのアプローチの中で企業さんの思いも伝えて、互いの連携を図りながら、雇用拡大にもつなげることができればと思っています。」



NPO法人 北部地域ITまちづくり協働機構HICO 末吉司さん(名護市)

いろいろな主体が関わらなければ まちづくりは成立しないんです。

「まちづくりというのは、1つの団体だけが独立して成立することではなくて、いろいろな主体がいろいろな分野で関わっていくことが大切。お願いをすれば協力をしてくれるところが、きっとあると思いますので、今後も、学校と地域と一緒にあってできる仕組みを広げていきたいですね。」



(株)Life Assistant 繁田稔さん(名護市)

子ども達の夢を伸ばしていく それが大人や社会の仕事。

「まちぐるみで関わった子ども達の将来の夢を、今後はいかに伸ばしていけるか、そこにどうやってもっていけるか、それが大人や社会の仕事ではないかと、思っています。」



丸西青果物店(宮古島市)

職場の空気もしまってくるし、 自分たちにも良い体験でした。

「子供たちが来ることで、職場の空気もしまってくると思うので、今回初めての受け入れでしたが、自分たちにとっても、よい体験をさせてもらいました。短い時間ですが、こうして大人の働く姿を見てもらえるのであれば、これからも宮古島全体でこの活動を続けて欲しいと、私たちは願っています。」

地域力の真価が発揮され その成果と今後の展望に

ジョブシャドウイングの実施時間は約2時間ほど。しかし、そのわずかな時間に関わらず、体験した児童・生徒達準備に費やされた多くの時間、地域の人々の連携こそジョブシャドウイングを成功に導くカギ。有識者の方々、地



みんなでグッジョブ運動アドバイザー 慶應義塾大学SFC研究所 上席所員 高橋俊介さん

効果のあるキャリア教育には 地域の連携が不可欠なんです。

「ジョブシャドウイングは、これまでに何度もやってきていますが、今回は、PTAや公民館、自治会など地元のみなさんが、総出でお手伝いをいただいているのが大きな特徴だといえます。学校と受け入れ企業の協力はもちろんですが、それ以上にキャリア教育は、家庭や地域といったコミュニティを巻き込んでいかないと効果が十分に出せない。そういう意味でも、今回の取り組みは、地元の皆さんの多大なご協力があって、すごくよかったと。今後のモデルケースにしていくべきだと思います。」



泡瀬特別支援学校 安仁屋順子先生

わずか2時間でも密度濃い体験 子ども達の成果発表に驚きました。

「従来の就業体験で仕事をさせる場合、生徒達にとっては、実際に仕事をするというプレッシャーだけでも結構大変なんです。ところが、ジョブシャドウイングの場合は、自分がすることがあまりないぶん、働く人を見ることに集中できます。彼らが見てきたのは、仕事の全体であるとか、人と人のつながりであるとか、仕組み自体を学んできているので、これまでとはまったく違った取り組みなんだと気付きました。ジョブシャドウイングのスケジュールは、思っていた以上に多くの時間がかかりましたが、わずか2時間の体験で、生徒たちがこれだけの発表ができるようになったのも、それまでの準備が綿密になされた成果だと理解できました。」



竹富町立 大原中学校 神谷本光先生

職業選択の幅を広げる 学習効果の高さを実感しています。

「大原地区は非常にいいところではありますが、企業の数に限りがあって、子供たちに職業の情報が入りづらい。そんな環境にあって、ジョブシャドウイングを通していろいろな職種にふれることで、2年生の職場体験をする時の選択の幅が広がっている様子が見えます。子ども達の職業の視野が広がるという点で、とても学習効果があると感じています。」

地域に根ざした取り組みを進めることで、 地域もよくなり、子ども達の職業観も高まる。

これが必要だと考えています。

これまでに培ってきたノウハウを高めながら、さらに実施地域を広げていくことで、ジョブシャドウイングを地域が主体となった自立的な取り組みにしていくことが今後の目標です。そのためには、県として引き続きサポートしていく

と、ここに大きな意義があると思います。

学校現場だけではなく、地域のみなさんが子ども達の教育に関わることで、結果的に地域そのものがよくなっていくこと、職業観を養うためには、地域に根ざした取り組みが欠かせないことに気づいていただけたこと、ここに大きな意義があると思います。

児童・生徒達に、働くことの意味を考えるきっかけとして、沖縄型ジョブシャドウイングモデル事業を推進してきました。今年は、より具体的な効果を狙うためにも、地域の連携が必要でしたが、さまざまな団体にご協力をお願いしたところ、みなさん快く引き受けていただいたことが大きな成果といえます。



沖縄型ジョブシャドウイングモデル事業
推進検討委員会
委員長 宮平 栄治
(名桜大学教授)